

取組名称	持続可能な畜産への挑戦 ～ビーフダイバーシティと避難放牧～			団体設立後の経過年数	5 年
応募取組主体名称	栃木県立矢板高等学校 農業経営科農業技術部	活動地域	栃木県矢板市 塩谷町・高根沢町	応募取組の活動年数	4 年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨
地域のために放牧牛や放牧場を活かす取り組みを模索する中で、肉質等級が低い赤身の放牧牛でも、SDGsブランディングによる加工・商品化を行うことで、エシカル消費に繋げることはできないかと考えた。また、地域内牧場の多くが、土砂災害警戒区域である事実を知り、有事を想定した家畜動物の防災こそが持続可能な畜産の根幹であり、スタートラインではないかと考え、地域資源である家畜の命と農村社会を守ることを目的に避難放牧も実施した。
実績の要旨
（１）ビーフダイバーシティ…肉付きも肉質も悪い放牧牛を自家製飼料による再肥育によって出荷可能に。買戻した精肉を地元企業協力のもと冷凍ハンバーグを開発。市のふるさと納税返礼品に採用され、今では人気商品である。これまでに試食会や販売会など、計 8 回の地域イベントも開催している。 （２）家畜動物の防災・減災…プロトタイプとなる防災計画を策定し、避難場所としての整備を進めた。産学官民の連携を図り、地域一体となって取り組み、これまでに 2 度の避難訓練も実施している。

取組評価の要旨	環境への貢献	土→草→牛の循環そのものが、環境貢献度が高い生産である。更にバイオ炭施用も行うことで炭素貯留の場にもなっている。
	社会・経済への貢献	A5 ランククラスの和牛だけではなく、赤身の放牧和牛を地元で流通する仕組みを創出し、多様な牛肉消費を推進している。
	地域資源の活用	放牧牛を再肥育する際の自家製飼料には酒粕や米糠といった地域内未利用資源を活用。バイオ炭製造にも未利用バイオマスを利用している。
	普及・汎用性	販売会や試食会の開催以外に、放牧場での防災イベントや学会発表にも取り組むなど、多方面で放牧場や放牧牛の素晴らしさをPRしている。
	革新・ユニーク性	放牧牛の商品化や販売は、牛肉に付加されるストーリーが好評。「家畜の避難訓練」は前例のない取り組みであると大きな反響があった。
	継続性	多様な主体と連携することで、様々な視点からPDCAサイクルを実践。放牧場や放牧牛のファンを増やししながら背中も押していただいている。

展望の要旨	放牧牛は熟成や加工などの技術によって、さらなる社会消費・環境消費・地域消費へとつなげていきたい。家畜避難については、家畜管理・行動分析のための科学技術を応用し、社会に還元していきたい。
-------	--